

【計算例 ケース 1】

個人市・県民税額の計算例(A さん 55 歳(給与収入)の場合)

家族構成:妻(48 歳):合計所得金額 0 円

給与収入:21,000,000 円

支払った社会保険料:700,000 円

支払った生命保険料(新契約・一般):100,000 円

支払った生命保険料(新契約・介護):100,000 円

支払った地震保険料:10,000 円

給与所得計算

$$21,000,000 \text{ 円} - 1,950,000 \text{ 円} = 19,050,000 \text{ 円} \cdots \textcircled{1}$$

(注意) 給与収入額によって計算方法が異なります。

所得から差し引く額の計算(所得控除)

社会保険料控除:700,000 円

生命保険料控除:56,000 円(内訳:新契約・一般…28,000 円、新契約・介護…28,000 円)

地震保険料控除:5,000 円

基礎控除:430,000 円

所得控除計:1,191,000 円…②

税額控除前所得割額の計算

$$\text{課税所得金額:} \textcircled{1} 19,050,000 \text{ 円} - \textcircled{2} 1,191,000 \text{ 円} = 17,859,000 \text{ 円} \cdots \textcircled{3}$$

税率:市民税…6%、県民税…4%

$$\text{市民税税額控除前所得割:} \textcircled{3} 17,859,000 \text{ 円} \times 6\% = 1,071,540 \text{ 円} \cdots \textcircled{4}$$

$$\text{県民税税額控除前所得割:} \textcircled{3} 17,859,000 \text{ 円} \times 4\% = 714,360 \text{ 円} \cdots \textcircled{5}$$

調整控除の計算

③の金額が 200 万円を超える場合

1. 人的控除の差の合計

所得税控除 - 住民税控除 = 差額

$$\text{基礎控除:} 48 \text{ 万円} - 43 \text{ 万円} = \underline{5 \text{ 万円}}$$

2. 合計課税所得金額(③の金額) 17,859,000 円

3. 人的控除の差の合計 - (課税所得金額 - 200 万円) × 5%(市民税3%、県民税2%)

$$5 \text{ 万円} - (17,859,000 \text{ 円} - 200 \text{ 万円}) \times 5\% = -15,809,000 \text{ 円}$$

計算した額が 5 万円を下回る場合は 5 万円となるので⇒ 市民税調整控除額:5 万円 × 3% = 1,500 円…⑥

県民税調整控除額:5 万円 × 2% = 1,000 円…⑦

所得割額の計算

市民税所得割額: ④1,071,540 円 − ⑥1,500 円 = 1,070,000 円 (100 円未満切り捨て) ……⑧

県民税所得割額: ⑤714,360 円 − ⑦1,000 円 = 713,300 円 (100 円未満切り捨て) ……⑨

【年税額】所得割額税額・均等割額税額・森林環境税額(国税)の計算

市民税額: 3,000 円 (均等割額) ……⑩ 県民税額: 1,500 円 (均等割額) ……⑪

⑧⑨1,783,300 円 (所得割額) + ⑩⑪4,500 円 (均等割額) + 1,000 円 (森林環境税額(国税)) = 1,788,800 円

年税額 1,788,800 円